



イスクラ産業(株)本社ビル

東京・日本橋 / 2025年竣工

- ・東京都中央区日本橋2丁目
- ・RC造8階 / オフィスビル新築
- ・延床面積 : 547.89㎡
- ・施工 : 白石建設(株)
- ・庵治石調達 : (株)彩石 (石工事参加)

外装にはすべて表情の違う782枚もの庵治石割肌の板材を用い、力強く重厚な石柱を5本形成。エントランス、1階エレベーターホールにも同様に庵治石割肌を37枚使用し、重厚感ある唯一無二の空間を生み出した

1-2 1階エレベーターホールの壁にも庵治石割肌の板材を使用。エントランスから続く石の洞窟のような空間で、外壁と同様にすべて表情の違う美しい庵治石が来訪者を出迎える。3 イスクラ産業(株)本社ビルの外観。すぐ後ろには日本橋高島屋が構える一等地で、石の存在感を存分に発揮している。4 庵治石の石柱は1階から6階までを貫く。各階に設えられたバルコニーの壁も庵治石割肌で彩られている

2 | 1
4 | 3

photos: イメージグラム

今月の表紙は、イスクラ産業(株)本社ビル・1階エレベーターホールの庵治石割肌の壁面です (撮影:編集部)。

今年6月、日本橋高島屋のすぐ裏手、昭和通り沿いの一等地にイスクラ産業(株)本社ビルが竣工した。外装には荒々しく力強い花崗岩をふんだんに使用し、まるで組積造のような柱を形成している。石肌の色合い、表情も多種多様で、それらがパッチワーク状に入り交じっている。上品に整えられた外装材を使用した建物の多い日本橋界隈で、石本来の美しさを謳歌しているかのような佇まいだ。

「外装の花崗岩はすべて庵治石(香川県産)です。庵治石特有の斑の入った石肌やカサネ肌、サビ肌などを生かし、表面は粗野な割肌のままで使用しています。これを切削・研磨仕上げてしまっただけは、庵治石の魅力である力強い存在感を消してしまうと考えました」

そう話すのは設計を手がけた建築家・加藤雅康氏(カトウアーキテクトオフィス・主宰)だ。外壁から続く1階エントランスからエレベーターホールの内壁にも同様に割肌の庵治石を使用し、その総量は800枚を超える。当然、設計の段階ですべてを計算して割り付け、1枚ずつに図面を描いて加工・施工された(厚みは約30〜約80ミリ)。

「石は素材の王様。なかでも特別な存在の庵治石で、他に類のない建築を生み出したことが嬉しい」と加藤氏はいう。

建築家・加藤雅康と庵治石

(株)彩石が庵治石調達と施工にも参加

カトウアーキテクトオフィス

東京都新宿区西落合3-12-11

tel. 03-5906-5859

<https://www.kato-a-o.com>

(株)彩石

東京都文京区小石川3-3-7

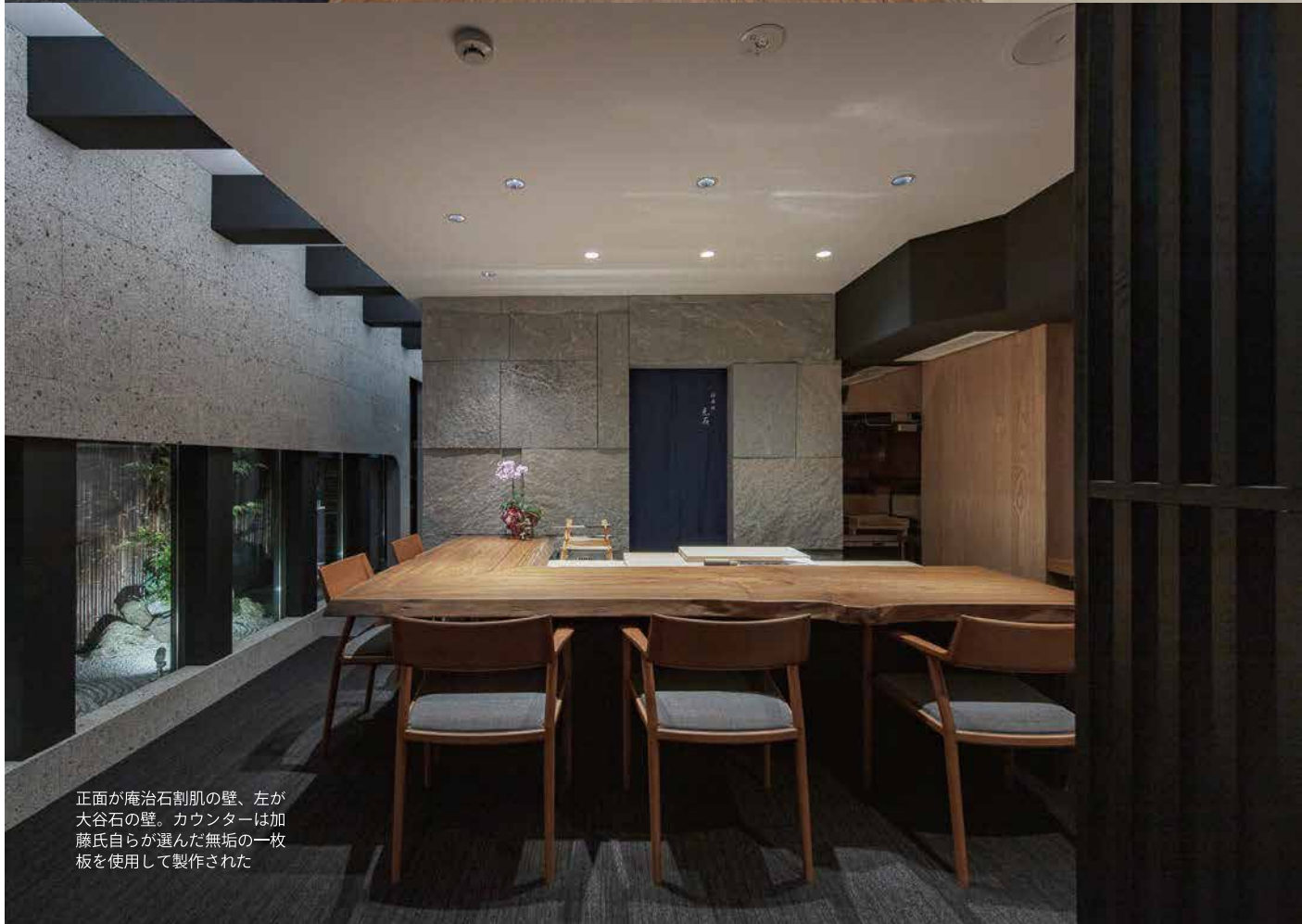
tel. 03-6801-8902

<https://saiseki.net>

イスクラ産業(株)本社ビル・1階エントランス側の外観。表情ゆたかな庵治石割肌の板材(最大で長辺約100cm、厚み約30〜80mm)で計5本の石柱をつくり、大地につながる重厚感、力強さ、温かさを表現した



カウンター席に面する壁を庵治石割肌で設えた。正面奥は大谷石の壁。天井まである大窓の半分ほどをあえて隠し、空間に落ち着きを与える



正面が庵治石割肌の壁、左が大谷石の壁。カウンターは加藤氏自らが選んだ無垢の一枚板を使用して製作された

1〈神楽坂 光石〉のエントランスから庵治石割肌の壁を望む。2 庵治石の表情。よく見ると、繊細なタッチで「神楽坂 光石」と店名が刻まれている。3 カウンターとテーブル1席の小ちんまりとした店内を、庵治石、大谷石、木材などの本物の素材が彩り、特別な空間・時間をつくり出す。料理長自らが厳選した食材・お酒・器により、至高の和食が愉しめる名店だ。4 洗面所。ここだけを見て洗練された空間設計が感じられる

2 | 1
4 | 3

photos: イメージグラム



神楽坂 光石

東京・神楽坂 / 2019年竣工

- ・東京都新宿区神楽坂6-22 奥神楽坂ビル2階
- ・内装リノベーション / 和食店
- ・延床面積 : 35.97㎡
- ・施工 : ㈱松崎工務店
- ・庵治石調達及び施工 : ㈱彩石

彩石グループの高級和食店〈神楽坂 光石〉。料理長厳選のこだわりの食材とお酒、器が多くの美食家を唸らせる名店だ。その店内は表情ゆたかな庵治石割肌と、しっとりとした大谷石により彩られている。

中面に建築家・加藤雅康氏のインタビュー記事を掲載しています。あわせてお読みください！

加藤氏と庵治石との出会いは、お墓を軸に寺院総合コンサルティングサービスを展開する(株)彩石(大西正也社長)がグループ会社で運営する、高級和食店〈神楽坂 光石〉の内装改修工事の設計を手がけたのが最初だ。石にこだわる大西社長に庵治石を紹介され、「本物の素材だけが持つパワーに惹かれて即決した」という。すでにしっとり温かい大谷石で窓辺の壁を設える構想があり、それとは対照的な庵治石の力強い存在感を最大限生かせるよう、表情に富んだ割肌で店内のフォーカルポイントとなるカウンター席正面の壁をつくり上げた。

「高級和食店にふさわしい特別な空間を生み出すためには、庵治石や大谷石のような本物の素材が不可欠です。特に庵治石はその力強さゆえに、他の素材との組み合わせを含め、見せ方、使い方がとても難しい。でもそれを具現化するのが設計者・デザイナーの仕事。また新たな使用イメージやアイデアをいくつか温めています」と加藤氏はいう。

なお、イスクラ産業(株)本社ビル、〈神楽坂 光石〉ともに、庵治石の調達は産地の採掘・加工業者と太いパイプを持つ(株)彩石が行なった。またいずれの現場にも同社は参加し石工事も手がけ、建築石材事業のノウハウを深めている。

——建築を設計するうえで、最も大切にしていることは何でしょうか？

加藤雅康氏 よく聞かれることで、そのたびに答えが違います（笑）。そのくらい、日に日に変わっていくのですが、私は常に「いつか設計に採り入れよう」というアイデアや素材をいくつも自分のなかの引き出しにしまっておきます。それを若い頃には、設計の依頼をいただく、無理矢理のように当てはめていたんですね。野心的というか、若い頃はみんなそういうところがあると思いますが、クライアントを無理に説得しながら進めていくという感じでした。

でも、年齢や経験を重ねていくうちに、クライアントの建築に対する思いは何なのか、何を求め、現在から未来へと進む時間の流れのなかで、将来この建築がどのようなつながっていくのか、ということをもっと先に探すことを最重視するようになりました。いわゆる設計コンセプトの明確化です。いろいろな思いを抱えていても、最初から端的に言葉で表現できるクライアントは多くなく、それを何気ない会話などからできるだけ早く見つけてあげる。そのうえで、

特別インタビュー

「石は素材の王様。 庵治石は特別な存在感を放つ」

建築家 加藤雅康
カトウアーキテクトオフィス 主宰



加藤雅康 かとうまさやす

1962年、東京生まれ。86年、関東学院大学工学部建築学科卒業、ケン設計工房勤務。2002年、カトウアーキテクトオフィス開設。24年、関東学院大学非常勤講師。（主な賞歴）2008年、グッドデザイン賞受賞。16年、グッドデザイン賞受賞。21年、第34回「茨城建築文化賞」入選

●カトウアーキテクトオフィス：東京都新宿区西落合3-12-11 tel. 03-5906-5859 <https://www.kato-a-o.com>

これまでの経験も活かしながら、引き出しから最適なものを取り出して、プログラムに落とし込むのがいまの私の設計のスタイルです。

——クライアントの思いを形にすることですね。そして将来まで考えて設計していく。すべての建築は否が応でも形として残るものだから、とても重要な作業ですね。

加藤 そこが大きなポイントで、クライアントも求めるものがあるからこそ、私たち建築家のところへ相談に来ますから、やはり期待以上の答えを示さないといけません。だからよくできて当たり前で、むしろそれが最低ラインであり、いかにクライアントの想像を超えられるか。その緊張感は大いいですね。

建築家が想造する型を実現するために、私たちのアイデアを理解して受け入れていただくクライアントと、それを型にするづくり手（加工者・施工者等）の存在が非常に重要になります。この三者の意識が揃って同じ方向に向かないと、いくら素敵なデザインを考えても、最終的にそうはならない。そのトライアングルをいかに調整し、バランスを取るか。それも建築家の重要



今年6月に竣工したイスクラ産業(株)本社ビル・1階エレベーターホール（東京・日本橋）。壁全面を彩るのは表情ゆたかな庵治石割肌の板材で、石本来の美しさ、力強さを生かして使用。重厚な洞窟のような空間をつくり出した。床は外国産花崗岩

photo: イメージグラム

*カラー口絵●●頁もご参照を！

〈神楽坂 光石〉の店内。フォーカルポイントとなるカウンター正面の壁には荒々しい庵治石割肌（最大で長辺約80cm、厚み約30～80mm）を使用し、窓辺の壁にはしっとりと温かみのある大谷石を使用。大谷石の壁は大窓の上半分ほどを隠し、窓からの光や景色を抑えることで空間に落ち着きを与える。カウンターは加藤氏自らが選んだ無垢の一枚板を使用した特注品。その他も本物の素材にこだわり、高級和食店にふさわしい洗練された空間を生み出している

1 右手が庵治石割肌の壁、奥が大谷石の壁。
2 大谷石の壁の下部から端正な坪庭がのぞける。
3-4 カウンターとテーブル1席の小ぢんまりとしたお店で、美味しい和食がいただける人気店だ

2	1
3	
4	

photos: イメージグラム

こうせき
神楽坂 光石
東京・神楽坂 / 2019年竣工

- ・東京都新宿区神楽坂6-22 奥神楽坂ビル2階
- ・内装リノベーション / 和食店
- ・延床面積：35.97㎡
- ・施工：㈱松崎工務店
- ・庵治石調達及び施工：㈱彩石

彩石グループの高級和食店〈神楽坂 光石〉。料理長厳選のこだわりの食材とお酒、器が多く的美食家を唸らせる名店だ。その店内は表情ゆたかな庵治石割肌と、しっとりとした大谷石により彩られている

tel. 03-6265-0214
<https://kouseki.jp>



な仕事、役割だと考えています。

今年六月に竣工したイスクラ産業(株)本社ビルの新築プロジェクト(東京・日本橋／割肌の庵治石をふんだんに使用したオフィスビル／カラー口絵**頁参照)では、クライアントとともに庵治産地へ視察に行きました。丁場主や加工者、施工者も、クライアントと設計者の顔を見れば意欲や熱意が伝わり、お互いのモチベーションも上がります。私自身も設計の職人ですから、お互いに励まし合うというか、いいものを一緒につくり上げていく意識が共有できます。

――石は建築の素材として、もともとご自身の引き出しに入っているものでしたか？

加藤 もちろん。でも正直に言えば、なかなか使うチャンスが少ない素材です。それは予算の問題や、施工の難しさやスピードなど、いろいろな事情があり、特に一般住宅では石よりもタイルのほうが使いやすいといえますね。

――そのなかでイスクラ産業(株)本社ビルや〈神楽坂 光石〉(二〇一九年竣工／東京・神楽坂／㈱彩石がグループ会社で運営する高級和食店で内装に割肌の庵治石を使用／カラー口絵**頁参照)では庵

治石を多用されました。〈神楽坂 光石〉はどのような仕事でしたか？

加藤 ㈱彩石の大西正也社長とは旧知の仲で、もともと東京・外苑前にあった〈神楽坂 光石〉の前身のお店にもよく食事に行っていたんです。外苑前から神楽坂にあるテナントビルに移転することになり、そのご縁で内装の改修設計をご依頼いただきました。神楽坂のお店は小ぢんまりとした空間で、料理長が厳選した産地直送の旬の食材を使った料理を愉しめる和食店で、メニューはすべて料理長おまかせの高級店というコンセプトがすでにできていました。

となると、内装材には「高級店にふさわしい本物の素材を使わなければ」と考えました。大西社長も「石屋だから石を使いたい」と考えられていて、フォーカルポイントとなるカウンター正面の壁と、窓辺の壁にも石を使用することが決まりました。

石選びについては、窓辺の壁にはしっとりと温かみのある石肌の大谷石を使いたいと考えました。大谷石の風合いは和食との親和性が高く、本物の素材でありながら価格的にも比較的扱い

やすい。もともと私の好きな素材の一つで、これまでにも住宅やビルの壁やアプローチの床などに何度も使った経験があります。

もともと床から天井までつくられていた大きな窓の内側に新しい大谷石の壁をつくり、内装の雰囲気をはかりと変えました。また窓をすべて覆い隠すのではなく、上半分ほどを隠して窓からの景色や光の量を抑えることで、空間に落ち着きや高級感を与えています。

一方のカウンター正面の壁は、しっとりとした大谷石の壁とは対照的に「割肌の石で荒しい表情にしたい」と大西社長に相談すると、「この石はどうか？」と、庵治石の自然肌のサンプルを提示されました。正直、私はそれまで庵治石を使ったことがありませんでしたが、サンプルとはいえ、本物の素材だからこそ力強い存在感、石肌の美しさに大きな魅力を感じて、使用を即決。その魅力を消すことなく存分に生かす方法を考えて、割肌の石の厚みや立体感を表現するためにあえて目地を揃えずに配置し、また内装の小面積の壁なので、目地幅を取らずに石同士を積み重ねながら段差をつけるように

設計（割り付け）しました。

——庵治石はすべて縦横のサイズが違いますが、それらも設計段階で決めるのですね。

加藤 もちろんです。すべての石の割り付け、サイズの算出が完了してから、加工がスタートします。庵治石は大きなもので長辺が約八〇センチ、厚みは割肌なので細かく指定できませんが、約三〇約八センチに抑えるように指定しました。このときは庵治産地までは行けませんが、石の調達には(株)彩石に委託し、現場での取り付けも同社が手がけています。

そして、この〈神楽坂 光石〉で庵治石の魅力を深く感じ、建築の可能性を想像しました。「いつかもっと大々的に使いたい」と引き出しに入れて温めておいたのが、ついにイスクラ産業(株)本社ビルでそのチャンスをいただくことになりました。

——イスクラ産業(株)本社ビルの新築プロジェクトはどのような経緯で依頼されたのですか？

加藤 二〇二三年一月七日にオーナーから「日本橋に土地を所有しており、そこに本社ビルを建てたく、建築の相談をお願いしたい」という

メールをいただいたのが始まりです。私の自宅を紹介したテレビ番組をご覧になったのがきっかけで、「味気のないオフィスの箱をつくるのではなく、住宅を考えるとどのような感覚で設計してほしい」と要望されました。それを主軸に定め、温めておいた庵治石割肌の使用を提案したところ、快諾いただきました。

——結果的に外装と内装を合わせて八百枚以上の庵治石を使用されているようですが、どのようなデザインを考えられましたか？

加藤 まず外装には七百八十二枚の庵治石割肌を用いて、一階から六階までを貫く柱を五本つくりました。これは〈神楽坂 光石〉でも同様ですが、庵治石の特徴である斑の入った肌やカサネ肌、サビ肌などがパッチワークのように組み合わさっています。周囲の建物で使用されている工業化製品とは明らかに違う、本物の素材である石が持つ力強さ、温かさを表現したいと考えました。また石柱は頑強な組積造のようにも見え、地中から岩盤が伸び上がったような大地とつながる重厚感も感じられます。

その外壁から連続して、一階のエントランス



イスクラ産業(株)本社ビルの外観。庵治石割肌の板材(最大で長辺約100cm、厚み約30～80mm)で1階から6階までを貫く5本の石柱をつくり、大地とつながる重厚感、温かさを表現。日本橋高島屋の近隣、昭和通りに面した一等地で石本来の美しさ、力強さを強烈に発信している
photos: イメージグラム

イスクラ産業(株)本社ビル 東京・日本橋 / 2025年竣工

・東京都中央区日本橋2丁目 ・RC造8階 / オフィスビル新築 ・延床面積：547.89㎡
・施工：白石建設(株) ・庵治石調達：(株)彩石(石工事参加)

外装にはすべて表情の違う782枚もの庵治石割肌の板材を用い、力強く重厚な石柱を5本形成。エントランス、1階エレベーターホールにも同様に庵治石割肌を37枚使用し、重厚感ある唯一無二の空間を生み出した



イスクラ産業(株)本社ビル・1階エレベーターホールの壁の庵治石割肌の力強い表情。天井は木材



イスクラ産業(株)本社ビルの庵治石割肌。外壁同様に多種多様な石肌が見られ、まるで庵治石の標本室。**1-2** エントランス。**3-4** 1階エレベーターホールの壁

photo 1: イメージグラム

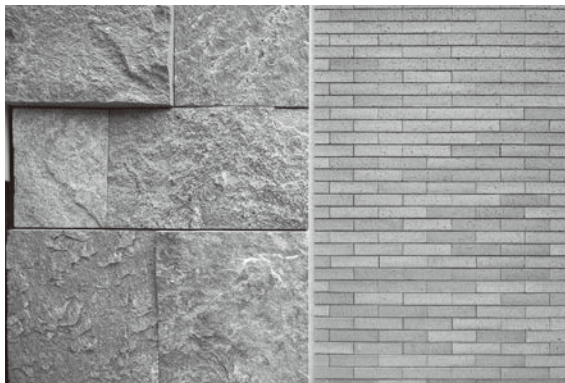
とエレベーターホールの内壁にも庵治石割肌を三十七枚使用しています。洞窟のような重厚な空間をつくることで、ここで働く方々、また商談等でここを訪れる方々に安心感や特別な印象を与えたいと考えました。その床には花崗岩(外国材)を張っていますが、庵治石の壁の重厚感

に圧倒されているかのように見えます。また一階から六階までのバルコニーの壁にも、外壁と連なる庵治石割肌を使用しています。それらの庵治石は〈神楽坂 光石〉と同様に、一枚一枚すべて設計の段階で割り付けを行ない、施工時の目地幅も決め、縦横のサイズを指定し

ています(最大で長辺約一メートル、厚みは約三、約八センチ)。その時点で一枚ずつに番号を付しているのです、現場では順番どおりに乾式で取り付けしていくわけです。当然、石肌の色合いや表情、厚みは、ある程度想定できるものの、人為的に指定することはできません。ただ、想定とは違った石が納められても、それを生かして施工し、結果的にはいいものが出来上がりました。そういったことも自然素材である石ならではの面白さであり、大きな魅力と捉えています。

今回も庵治石の調達には(株)彩石に委託し、現場施工にも参加されました。庵治石の採掘・加工は二〇二四年夏頃から始まり、同年十一月から現場での取り付け工事が始まりました(翌年六月に竣工)。これだけのボリュームの庵治石割肌の調達は、運送の手配や価格面も含め、産地との太いパイプを有する(株)彩石でなければ実現し得なかったのではないかと思います。

また、私は二度、庵治産地へ視察へ伺いました。一度目は丁場等を視察し、庵治石の原石を見せていただき、二度目はクライアントと一緒に小豆島の加工場まで出向き、加工状況等を視



察しました。その際には(株)彩石の案内で大島石の産地も視察することができ、大島石もいつか使いたい素材として引き出しのなかで温めていきます。

――内装と外装にこれだけの面積で庵治石割肌を使用しながら、想定内の部分はとても緻密にデザイン設計されていることに驚かされます。

加藤 いわゆる「ディテール」といいますが、私は常にミリ単位での意匠表現にこだわっています。建築の大小にかかわらず、三ミリの誤差でも気になるくらいです。当然、手仕事の部分は誤差が生じるものですが、それも許容範囲は三ミリ未満。だから加工も施工も、基本的には職人さんの感覚任せにはできず、ミリ単位で計算した図面どおりの仕事を要求します。

そうして緻密に、丁寧につくり上げられた空間には特別な空気感が生まれます。それがその場に身を置いた人の居心地のよさにつながると思っています。洗練された高級感だったり、ワクワクしたり、心が落ち着いたり、建築の用途によって異なりますが、それは安易に高価な材料を組み立てただけでは表現できません。竣工

選びにとっても配慮しました。それだけコストはかかりますが、そうしないと庵治石の魅力も表現できず、空間全体のバランスも悪く、違和感ある仕上がりになってしまうのは明らかです。

庵治石はお墓の場合、斑を浮き立たせるように研磨仕上げて使うのが常識のようですが、建築の場合はきれいに研磨してしまうと、その力強い存在感が消し去ってしまうように感じられました。そうではなく、自然の石肌が放つ魅

後には見えなくなる部分も含め、すべてにおいて細部までこだわり抜いたディテールの積み重ねこそが空間に緊張感を生み、人々が再訪したくなる建築になると考えています。

庵治石割肌の表情や色合いは自然の産物です。ただ、割肌仕上げの場合、厚みの調整（約3～約8センチ）は工場の采配に委ねる部分も多く、ある程度はどんな仕上がりになるかの想定や想像はできても、冒険的な素材ともいえます。しかし前にも述べましたが、それが石の面白さであり、大きな魅力の一つだと思っています。

力を最大限に生かすために、私はあえて割肌を採用したわけですが、今回の経験を通して、さらに新しい庵治石の使用イメージやアイデアがすでにいろいろと浮かんでいます。

それも基本は、墓石には不向きとされる部分を活用するものです。建築の空間に上手に使用することで、墓石になる芯の部分以外の用途を拡げることができるはずです。これは庵治石に限らず、あらゆる日本の花崗岩の可能性を拡げることにもなるのではないのでしょうか。

今回、庵治石割肌を内外装にふんだんに使用して、他に類のないオフィスビルをつくることができました。(株)彩石や庵治石の採掘・加工業者など、皆様のご協力があつてこそ実現できたことです。イスクラ産業(株)にとってはまさに社運をかけた一大プロジェクトともいえ、今後はこのビルを舞台にビジネスが展開されていくわけですが、それにふさわしい建物ができたのではないかと思っています。関係者の皆様に改めて心より御礼を申し上げます。

—貴重なお話をありがとうございました。

(聞き手) 編集部 安田寛



——二つのプロジェクトで庵治石を使用し、改めて建築素材としての石、庵治石をどのように捉えていますか？

加藤 石は素材の王様であり、そのなかでも磨
治石は特別な存在感を放っています。他の素材
とは明らかにパワーとパンチ力が違います。だ
から隣り合う素材も本物でなければ、バラン
スが取れなくなります。イスクラ産業(株)本社ビル
でも、プリント合板ではなくて天然の木を使い
金属にしてもアルミの規格品ではなくて、鉄を
メッキリン酸処理した無垢材を使うなど、素材

- 彩石グループ -

THE ZEN 倶楽部



Benefit one
Dai-ichi Life Group

福利厚生サービス最大手
(株) ベネフィット・ワン
と提携しています

檀家、信徒募集に繋がる 宗教法人の為の福利厚生

霊園や樹木葬など、
寺社の基軸サービスを
ご紹介できます！

ベネフィットステーション
1100万人以上の会員向けPR






代理店を募集中です！

03-6801-8820



【運営元】〒112-0002 東京都文京区小石川 3-3-7 THE ZEN 株式会社 ((株) 彩石グループ) <https://the-zen.jp> info@the-zen.jp